

令和3年度入学生用 カリキュラムチェックリスト
 《薬科学教育部博士課程 薬学専攻》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力】	【2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び洞察力】	【3. 国際的発信力及び社会貢献】	科目の教育目標
		広範な教養、最先端の薬物治療を支える研究実践能力及び客観的な判断力を身につけ、臨床に根ざした新たな医療薬学研究の道を切り開き、臨床薬剤師、専門薬剤師、レギュラトリーサイエンスの精通した薬剤師研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者として卓越した能力を有している。	医療倫理観を備え、強い責任感、独自の発想力や豊かな創造力、広範な応用力及び深い洞察力を身につけ、自立して行動できる。	国際的に通用する力量を身につけ、世界をリードする研究成果を発信し、指導的薬剤師や臨床薬剤師として活躍することを通じ、社会の発展に貢献することができる。	
共通カリキュラム科目	英語論文作成法			◎	21世紀に医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の各分野で活躍する人材には発信型英語能力が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。
	クラスターコアセミナー	○	○		医療系5大学院博士課程所属・専門分野の異なる複数の指導者で形成した教育クラスターで、学生の主体性を尊重した双方向性の指導により領域横断的・学際的研究を自立的に遂行できる研究者を育成する。
	生命倫理概論		◎	○	生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護等について概説できる。
	臨床心理学		◎		臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題を説明できる。
	社会医学・疫学・医学統計概論	○	◎		社会医学・薬学・歯学等に関して、授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標にする。
	生命科学の研究手法	◎		◎	医科学・生命科学に必須の初歩的技術が理解できる
	ゲノム創薬特論	◎			ヒトゲノム情報に基づく疾患発症の分子機構、創薬及び治療アプローチに関する講義を通じて、ゲノム創薬の考え方と実際について学ぶ。
	健康食品・漢方	◎			健康食品、漢方、天然薬物などの正しい知識と、適切な使用方法に関する基本事項を身につける。
	医療系分野における知的財産学概論	◎	○	○	1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 研究活動や医療で必要な知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動するに際して役に立つ知的財産制度の内容を理解する。
	宇宙栄養・医学概論	◎		◎	宇宙栄養学・医学の分野において、宇宙実験の申請に必要な知識や問題点が理解できる。
専門科目	臨床薬物動態学特論	◎			患者治療のために、薬物動態学や治療薬物モニタリングを合理的に利用し、最適な方法で適切な患者に適切に投薬を行う事の重要性を理解する。
	実践医薬品情報学特論	◎			医薬品情報のスペシャリストとして、医薬品のリスクマネジメントやEBMを医療現場で実践できるよう、薬剤師・臨床薬学教育研究者が身につけるべき基本的な知識や研究方法を修得させる。
	医薬品開発特論	◎			創薬シーズから医薬品へと展開する課程を理解し、各段階において必要とされる知識を習得する。Learners need to understand the development from seeds to pharmaceutical products, and to acquire the knowledge required at each stage.
	臨床病態学特論	◎			疾病の医学的基礎知識を修得することにより、合理的薬物療法・先端医療・治験に貢献できる。
	がん専門薬剤師特論	◎			1. 抗がん剤により発現する副作用のモニタリング、時間の経過、関連薬剤、可逆性、症状、発現要因及びその対策について説明できる。 2. 薬物血中モニタリング(TDM)による投与量あるいは投与間隔の調節法について履修する。 Learners can explain the monitoring of side effects expressed by anticancer agents, time course, related drugs, reversibility, symptoms, development factors and countermeasures. In addition, they will be able to explain how to adjust doses or dosing intervals through drug blood monitoring (TDM).
	集学的治療薬特論	◎			1.がんの集学的治療について説明できる。 2.抗がん剤の補助として用いる薬物、支持療法について説明できる。 3.抗がん剤の臨床治験とEBM The goal of this class is to 1) explain the multidisciplinary treatment of cancer therapy, 2)explain the adjuvant and supportive care for cancer therapy, and 3) explain the clinical trials and EBM of cancer medicinal treatment.
	育薬共通演習	◎			医薬品開発における基礎研究および臨床研究を遂行するために必要な実験方法論や評価法に関する先進的な国内外の研究について理解を深める。
	医療薬学実践演習	◎			薬剤の適正使用を実践できる。先進的な治験医療に参画できる。代替医療を理解できる。 The goal of this class is to enable learners to practice proper use of drugs, to be able to participate in advanced clinical study, and to understand alternative medicine.
がんチーム医療演習	◎			徳島大学大学院薬科学教育部における授業科目の履修方法等に関する細則で指定する科目の授業概要を参照。	

	がん薬物治療実践演習	◎			<ol style="list-style-type: none"> 1. 抗がん剤を調製するために必要かつ適切な技術と薬剤の安定性について説明できること。 2. 抗がん剤の調製および投与に必要なかつ適切な道具について説明できること。 3. 抗がん剤の処方鑑査が実践できる。 4. 抗がん剤の適切な投与経路について説明できる。 5. 抗がん剤により発現する副作用のモニタリング及びその対策について立案できる。 6. 抗がん剤、免疫抑制剤、抗生剤等の薬物血中モニタリングが実践できる。 7. がんゲノム医療を理解し、個人に最適化されたがん薬物療法を提案できる。 8. レジメン管理が実践できる。 9. がん患者に対する薬物管理指導業務が実践できる。 10. 腎機能、肝機能、血液学的検査などの指標に基づいて、抗がん剤の種類、投与量、投与期間等の変更を医師に提案できる。
	薬学演習	◎	○	○	薬科学教育部に所属する22研究室の教員が、所属する大学院生数名と輪読や討論形式を通して、各専門分野における創薬や育薬関連の最新研究動向や研究方法について教授し、世界的研究成果を挙げられような研究者の初期育成を目指す。
	専攻公開ゼミナール	○	○	○	自身の関連学術に関する総説を作成し、薬科学教育部が合同で開催するゼミにおいて総説に基づいた発表・質疑応答を行い、論文執筆能力の向上、プレゼンテーション能力の向上を目指す。
	薬学課題研究	◎	○	○	指導教員が、担当の大学院生と相談し創薬や育薬に関連する研究題目を設定後、研究の進め方や実験方法の教授ならびに実験結果のまとへの助言を行い、研究成果を博士論文にまとめる。
アドバンスド科目	悪性腫瘍の管理と治療	○			徳島大学大学院薬科学教育部における授業科目の履修方法等に関する細則で指定する科目の授業概要を参照
	医療倫理・医療対話学		◎		徳島大学大学院薬科学教育部における授業科目の履修方法等に関する細則で指定する科目の授業概要を参照
	がんのベーシックサイエンスと臨床薬理学	○			徳島大学大学院薬科学教育部における授業科目の履修方法等に関する細則で指定する科目の授業概要を参照
	がんの臨床検査・病理診断・放射線診断学	○			がん診療と研究に必要な検査と病理学、診断、ステージングおよびフォローアップのための画像診断、腫瘍計測と治療効果判定について履修する。
	がん治療各論	○			徳島大学大学院薬科学教育部における授業科目の履修方法等に関する細則で指定する科目の授業概要を参照
	がん緩和治療	○			徳島大学大学院薬科学教育部における授業科目の履修方法等に関する細則で指定する科目の授業概要を参照
	がん治療薬特論	◎			<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種抗がん剤の分類と整理について理解する。 2. 抗がん剤の併用療法について理解する。 3. 分子標的薬について理解する。 4. 遺伝子多型と有害作用について理解する。 5. 時間薬理学について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. Understand classification and organization of various anticancer drugs. 2. Understand the combination therapy of anticancer drugs. 3. Understand molecular targeted drugs. 4. Understand gene polymorphism and its adverse effects. 5. Understand the chronopharmacology.